教育目標　すくすく　ぐんぐん　にこにこ

園だより 1月

令和５年１月１０日
第５３７号
北区立じゅうじょうなかはら幼稚園

園長　髙沢　ゆみか

幸福感に包まれた生活を

明けましておめでとうございます。令和５年が始まりました。各ご家庭ではどのような冬休みを過ごされましたでしょうか。何年かぶりに帰省したり、様々な人と会ったりするなど、子どもたちも年末年始ならではの経験をしたことと思います。ご家族そろっておうちで年末年始を過ごされたご家庭もあったことでしょう。ご家庭、地域の皆様にとりまして、よい一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

先月、北区立幼稚園・こども園ＰＴＡ連合会と北区教育委員会との共催行事として３年ぶりに教育懇談会が行われました。北区長、区議会議員、教育長、教育委員、北区教育委員会各課の方々と各園のＰＴＡ役員の皆様、園長、副園長たちが一同に会し、今年度は『読み聞かせについて～絵本で育つ子どもの心～』というテーマで懇談をしました。詳しい報告は、ＰＴＡ連合会の皆様がまとめてくださっていますが、私が会全体を通じて改めて感じたことは、読み聞かせは読み手（大人）と聞き手（子ども）が同じ時間を共有することに意味があり、それが子どもの心の核を育むということです。絵本の内容の楽しさはもちろんのこと、大人の「読んであげたい」という気持ちや子どもへの思いが伝わり、「自分を思ってくれている」「向き合ってくれている」という幸福感の中で絵本の楽しさに浸る喜びが、子どもの心を温め、強くさせるのだと思います。

新年の園生活では、かるたやすごろく、トランプ遊びなども発達段階に応じて経験できるよう取り入れていきます。これらの遊びの中で、子どもたちは楽しみながら文字や数、図形などに触れたり、ルールに沿って友達と一緒に遊んだりすることなどを経験します。５、６歳になってくると、ひらがなに興味をもつ子も増えてきて、一人でかるたなどの文字を読める子もいるかもしれません。しかし、自分で文字が読めるようになっても、大人による絵本の読み聞かせは、どうかご家庭でも大切に続けていただきたいと思います。ある脳科学の研究では、絵本を読んでもらっているときの子どもの脳は、滑り台を滑っているときの脳と同じ反応をしていたそうです。文章を聞いているのですから、脳の言葉に関する部分が反応しそうですが、情動を司る部分が反応したのだそうです。絵本を読んでもらうときの子どもたちは、ドキドキ、ワクワク心を動かしながら、絵本の世界にどっぷりと入り込んで楽しんでいます。一方で、自分で読むときは、文字をたどることに意識が集中し、絵本の世界を楽しみきることができません。自分で読むのも、大人に読んでもらうのも、どちらも絵本の内容をたどることに変わりはないように思われますが、子どもにとっては脳科学的にも全く異なる経験であることが分かります。

２学期後半は、さくら組もちゅうりっぷ組も、担任に読み聞かせてもらった大好きな絵本やお話をきっかけにしながら、様々な表現活動を楽しみ、生活発表会へとつなげていきます。これから、一年のまとめの時期に向かいますが、読み聞かせの時間のみならず、子どもたちが常に「自分は思ってもらっている」という幸福感に包まれながら園生活を送れるよう、教職員一同力を尽くしてまいります。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

今月の指導のねらい

＜ちゅうりっぷ組＞

- 好きな遊びに自分から取り組む中で、思いを実現する楽しさや、やってみたらできたという喜びを感じる。
- 学級の友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりに伸び伸びと表現する楽しさを感じる。

＜さくら組＞

- 自分のめあてを意識しながら、試したり挑戦したりして自分の成長を感じる。
- 友達と一緒に目的に向かって取り組む中で、考えたことを伝え合い、力を合わせる楽しさややり遂げる満足感を味わう。